第１号様式

学位論文審査の結果の要旨

令和２年９月16日

主　査　　奥田　潤　印
副　査　　中村　丈洋　印
副　査　　立石　謹也　印

学位申請者	所　属 領　域	保健医療学研究科博士後期課程 病因解析検査学領域
	学籍番号 氏　名	217DS01 宮川朱美
論文題目	Comprehensive assessment of oxidative stress degrees and anti-oxidant potential in dialysis patients	
学位論文の審査結果	合格	

〔論文審査結果の要旨〕

① 透析治療持続時間は何時間でしたか?
→今回の対象者全員４時間でした。

② 透析前後の比較において採血のタイミングは?
→透析セッション直前と直後です。

③ 透析セッション１時間後、２時間後についてはどうでしょうか?
→興味あるところですが、患者負担が大きいため難しいと考えます。

④ 今回の提案について、どのくらいの頻度で検査すればいいと考えますか?
→施設によっても違うと思いますが、透析前採血は２週間に１回実施しています。透析後採血は３か月に一回程度の実施がいいと思います。

⑤ なぜ３か月なのですか?
→現在、キナシ大林病院において、透析後採血は６か月に１度のため、３か月に１回はしたほうがよいと考えました。根拠はありません。申し訳ありません。

⑥ 提案の項目を測定することによってどんなメリットがありますか?
→透析直後は、血圧が下がる等、患者の体には負担がかかっています。酸化ストレスが増加すると、心臓に負担がかかるとも言われていますので、酸化ストレスを把握することは必要と考えます。

⑦ 当初は透析により酸化ストレスが下がると思っていたが、結果は逆に上がったということでしょうか?
→酸化ストレス度は除水の影響で増加していますが、抗酸化力は実際に透析セッションで低下しています。BAP テストと d-ROMs テストの比で酸化ストレスを評価すると酸化ストレスは増加していると思います。酸化ストレスを総合的に評価する研究です。

⑧ 学術セミナーの時は、別のストレスマーカーの検討も実施するといわれていたと思いますが、他のストレスマーカーの検討は実施しなかったのでしょうか?